

天理教語学院日本語科

日本語1(総合日本語初級)

期間	4月～6月(前期)
担当	各クラス教員
授業概要	初級の総合的な日本語能力を身につける。 ・主教材『できる日本語』の目的である「自分のこと／自分の考えを伝える力」「伝え合う・語り合う日本語力」を身につけるように学習を進め、各課行動目標の達成を目指して学習する。
到達目標	[初級前半] 80 単位時間 ・よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、それらを用いて、自分の立場や身の回りの環境、日常生活について簡単な説明ができる。 ・相手の助けがあれば、基礎的な語彙を用いたやり取りができる。 [初級後半] 116 単位時間 ・ごく基本的な個人情報や家族、買い物など、身近な話題に関する語彙や表現を理解し、それらを用いて、日常の事柄や自身の経験を簡単に述べるができる。 ・馴染みのある話題であれば、定型的な情報の交換ができる。
教科書教材	『できる日本語初級』『できる日本語初中級』(アルク) 『漢字たまご初級』『漢字たまご初中級』(凡人社)
授業内容	[初級前半] ・入国前に習得された「日本語教育の参照枠」A1(JLPTN5)相当の語彙・文法学習を基盤とする。 ・『できる日本語 初級』第1課～第15課に基づき、自己紹介、買い物、日常の行動等、身近なタスクを遂行する力を養う。 ・日本語の文字(ひらがな・カタカナ・漢字)、発音等を確認し、正確な読み書き、および発話の練習を行う。 ・漢字学習:初級テキスト漢字約 162 字 [初級後半] ・『できる日本語 初中級』(1～11 課位まで)を使用。 ・日常生活に必要な基礎語彙、基本文型を習得する。 ・各課の「できる！」活動を通じ、相手に応じたやり取りや、身近な出来事の描写能力を養う。 ・漢字学習:初中級テキスト約 164 字(左記のうち 11 課位まで。12 課以降は中級 I で引き続き行う)
学習評価	①平常評価: 1.単元試験「語彙文法(3 課ごと)」「漢字(4 課ごと)」70%以上合格(以下の学生に対しては面談、再試等により学習状況改善を図る) 2.毎授業時、各学習活動(タスクの遂行など)におけるポートフォリオ評価 ・言語行動の積極性、他者との協働性、課題提出(改善のプロセス含む)について評価する。 ・ルーブリックに基づいて評価を行い、最終的に 100 点満点に換算する。 ②自己評価: ・課ごとに 2 回、can-do 確認(自己評価シート) ・学期開始時に 1 回、「自己評価チェックツール」(文化庁)での自己評価による客観的分析と、教師との面談を通じた学習目標の達成プロセスを評価する。 ③期末試験 言語知識(文法・語彙・漢字)の筆記試験 ④パフォーマンス評価(「会話」「作文」科目と連動) 各課で行う会話(ロールプレイ等)および作文(短い紹介文等)の成果を評価する。
成績評価方法	初級 I 修了: 上記①、②及び④を総合して修了・進級を判定する。 前期末: 上記①～③を合算した総合得点に基づき、以下の 5 段階で判定する。 単元試験・平常評価 20%、期末試験 70%、自己評価 10%
成績基準	A(85～100 点): 目標を十分に達成し、優れた能力を有している。 B(75～84 点): 目標を概ね達成し、良好な能力を有している。 C(60～74 点): 目標を達成しており、基礎的な能力を有している。(※合格ライン) D(40～59 点): 目標達成に及ばず、補習や再試験等の特別な指導を要する。 F(39 点以下): 目標に達していない。基礎知識の再構築が必要。 *C 以上が合格、それ以下については、面談を行い、状況把握の上、必要な課題を課した上で、再度評価を行う。

初級聴解

期間	4月～6月(前期) 初級前半約3単位時間、初級後半約4時間
担当	各クラス教員
授業概要	日本語の音声に慣れる。初級の聴解力を養う。
到達目標	初級前半: <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり、はっきりと話されれば、日常生活や学校生活における短い会話や指示を聞いて、自分に関わりのある基本的な情報を聞き取ることができる。 ・数字、時間、場所などの情報を認識し、適切に反応できる。 初級後半: <ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題に関する談話を聞き、話し手の意図や結論を概ね把握できる。 ・自分に向けられた簡単なメッセージや依頼の要点を理解し、適切に応答したり行動したりできる。
教科書教材	『できる日本語初級』(アルク) 必要に応じて、以下の公的オンライン教材等を利用 『いそどろ生活の日本語入門』『いそどろ生活の日本語初級 1』 『いそどろ生活の日本語初級 2』(国際交流基金)
授業内容	日本語の音声についての簡単な解説と聞き分けの練習 ①導入: イラストやキーワードを提示し、ペアやグループで話し合う。(スキーマ活性化) ②タスク: 教師の読み上げや音声を聞き、タスクを行う。 ③本文確認: ペアで答えを確認し、教師が学生に質問をしながら聞き取りのポイントを確認する。 ④発展: 学んだ表現を使って、会話のスキットを練習して発表したり、テーマに関連した身近な話題で、グループで意見交換を行ったりする。 ⑤振り返り: 学習した表現や聞き取りのポイントを整理し、記録する。 ゲーム要素のある活動を行い、楽しみながら未知の情報を聞き取り、即座に理解・判断する力を養う。(例スリーヒントゲーム) ①導入: ルール説明 ②活動実施 ③振り返り
学習評価	①平常評価: <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業時、各学習活動(タスクの遂行など)におけるポートフォリオ評価 ・言語行動の積極性、他者との協働性、課題提出(改善のプロセス含む)について評価する。 ・ルーブリックに基づいて評価を行い、最終的に100点満点に換算する。 ②自己評価(文化庁自己評価ツール「聞く」) 学期開始時及び学期末に各1回 「自己評価チェックツール」(文化庁)を利用して「聞く」についての客観的分析と、教師との面談を通じた学習目標の達成プロセスを評価する。 ③期末試験 聴解試験を行い、身近な話題について、ゆっくりとはっきり話される談話を聞いて、主要な内容や基本的な情報を正確に聞き取れるか評価する。
成績評価方法	初級I修了: ①及び②を総合して、修了(進級)を判定する。 前期末: ①～③を合算した総合得点に基づき、以下の5段階で判定する。 (平常評価20%、期末試験70%、自己評価10%)
成績基準	A(85～100点): 目標を十分に達成し、優れた能力を有している。 B(75～84点): 目標を概ね達成し、良好な能力を有している。 C(60～74点): 目標を達成しており、基礎的な能力を有している。(※合格ライン) D(40～59点): 目標達成に及ばず、補習や再試験等の特別な指導を要する。 F(39点以下): 目標に達しておらず、基礎知識の再構築が必要。 *C以上が合格、それ以下については、面談を行い、状況把握の上、必要な課題を課した上で、再度評価を行う。

期間	7月～10月(中期) 約12単位時間
担当	各クラス教員
授業概要	<p>中級前半(B1)の読解力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主教材『できる日本語 中級』の「知って楽しむ」等を活用し、多様な媒体(記事、エッセイ等)から必要な情報を読み取る力を養う。 ・文章の要旨把握に加え、接続表現や指示語、段落の構成に注目し、文章の論理的構造を理解する訓練を行う。 ・JLPT(N3レベル相当)の出題形式にも触れ、情報検索や要旨把握等、目的に応じた読解ストラテジーを習得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や関心のある話題について、広告やニュース、物語等の文章から要旨を正確に読み取ることができる。(JLPTN3相当) ・文章の論理構成や指示語の関係を理解し、目的に合わせて必要な情報を素早く探し出すことができる。
教科書教材	『できる日本語中級』(アルク)
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> ①導入: テーマについて写真や資料を見ながら話し合い、背景知識を活性化させる。スキーマ活性化。 ②実践: 制限時間内に読み、全体像を把握する。未学習でも、必要な情報の抽出を試みる。 ③分析: 教師とやり取りしながら文章の背景や文脈を把握する。接続詞・指示語等に注目し、段落の構成、文章の流れを整理する。 ④解説・整理: 重要語彙や文型及び読解ストラテジーを整理・解説する。 ⑤読み取った情報(例: 日本の文化、社会問題)に基づき、ペア・グループで意見交換をする。 ⑥振り返り: 習得した読解方法や新出語彙、自己の課題をポートフォリオに記録する。
学習評価	<ol style="list-style-type: none"> ①平常評価: <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業時、各学習活動(タスクの遂行など)におけるポートフォリオ評価 ・言語行動の積極性、他者との協働性、課題提出(改善のプロセス含む)について評価する。 ・ルーブリックに基づいて評価を行い、最終的に100点満点に換算する。 ②自己評価 「自己評価チェックツール」(文化庁)を利用して「読む」についての客観的分析と、教師との面談を通じた学習目標の達成プロセスを評価する。 ③期末試験 筆記試験 身近な話題の文章から、必要な情報を素早く探し出し、文の要点を正確に理解できているかを評価する。
成績評価方法	①～③を合算した総合得点に基づき、以下の5段階で判定する。 (平常評価20%、期末試験70%、自己評価10%)
成績基準	<p>A(85～100点): 目標を十分に達成し、優れた能力を有している。</p> <p>B(75～84点): 目標を概ね達成し、良好な能力を有している。</p> <p>C(60～74点): 目標を達成しており、基礎的な能力を有している。(※合格ライン)</p> <p>D(40～59点): 目標達成に及ばず、補習や再試験等の特別な指導を要する。</p> <p>F(39点以下): 目標に達していない。学習継続に向けた基礎知識の再構築が必要。</p> <p>*C以上が合格、それ以下については、面談を行い、状況把握の上、必要な課題を課した上で、再度評価を行う。</p>

天理教語学院 日本語科
中級前半作文

期間	7月～10月（中期）約11単位時間
担当	各クラス教員
授業概要	<p>中級レベルの作文能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『できる日本語 中級』各課の「伝えてみよう」等のテーマに基づき、自分の考えやエピソードをまとまりのある文章で記述する力を養う。 モデル文の分析を通じて、段落の役割や文章の構造(序論・本論・結論等)を理解し、その構成を自身の執筆に活用する技法を習得する。 相手に状況が正確に伝わるよう、接続表現や語彙を適切に選択する運用力を高める。 <p>授業時間内では主に授業内容の太字部分を中心に行い、添削、清書の作業は課題として、発表は日本語の授業時間内に行う。</p>
到達目標	・身近な事項や関心のあるテーマについて、理由や具体例を挙げながら、まとまりのある文章で詳しく書くことができる。
教科書教材	『できる日本語中級』『できる日本語中級のことば・表現ワークブック』(アルク)
テーマ	「自己紹介」「買い物の経験」「将来の時間の使い方」「けが病気の経験」など
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> 主教材(『できる日本語中級』)の学習進度に合わせたレベルで作文を書く。 ①導入:テーマについてペアやグループで話し合い、アイデアを整理する。 ②分析:モデル文を読み、文章の論理的構造(序論・本論・結論等)を理解する。また、テーマに合わせた適切な表現を確認する。 ③作文:各自で構成案の作成および下書きを行う。 ④相互評価:学生同士で読み合い、改善点を教え合う。または、教師による添削を行う。 ⑤推敲・清書:フィードバックに基づき、自ら内容を練り直し、清書する。 ⑥発表:各自で読む練習を行い、クラスで発表する。 ⑦評価:振り返り、自己評価
学習評価	<p>①平常評価:</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎授業時の作文におけるポートフォリオ評価 『できる日本語』課ごとに作文の下書き、添削、清書し、下書きと清書を提出する。 <p>②自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 課ごとに1回、『できる日本語』「話読聞書」で書いた作文について評価する。 学期開始時に「自己評価チェックツール」(文化庁)を利用して「書く」についての客観的分析と、教師との面談を通じた学習目標の達成プロセスを評価する。 <p>③期末試験 筆記試験 パフォーマンス評価</p> <p>制限時間内に規定の字数で、テーマに合わせて書けるか評価する。</p> <p>評価項目:タスク達成(40点)、文法・語彙の正確性(20点)、字数と正書法の把握(20点)、話題の展開と一貫性(20点)合計100点満点)</p>
成績評価方法	①～③を合算した総合得点に基づき、以下の5段階で判定する。(平常評価40%、期末試験50%、自己評価10%)
成績基準	<p>A(85～100点):到達目標を超え、さらに上のレベルの要素を含む。</p> <p>B(75～84点):到達目標をクリアしている。</p> <p>C(60～74点):到達目標に部分的にやや届かない点もあるが、概ね達成している。(合格最低ライン)</p> <p>D(40～59点):到達目標に及ばず、再試験や追加課題を要する。</p> <p>F(39点以下):目標に達していない。基礎からの再構築が必要。</p> <p>*C以上が合格、それ以下については、面談を行い、状況把握の上、必要な課題を課した上で、再度評価を行う。</p>

期間	11月～2月(後期) 約12単位時間
担当	各クラス教員
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・『できる日本語』各課の「できる！」に基づき、グループワーク等を実施する。 ・社会的な話題について、自分の意見を論理的に構築し、他者と共有する力を養う。 ・複数のメディアから得た情報を活用し、利点・欠点の比較や課題解決のための議論を行う。 ・視覚資料を用いた詳細なプレゼンテーションや、多角的な視点からのディスカッションに取り組む。 ・グループワーク、ビジターセッションをこの時間に行う。(授業内容の太字)活動の準備は「日本語3」の時間に行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い社会的な話題について、論理的な構成をもって自分の意見を述べるができる。 ・相手の反応に応じて効果的な語彙表現で、説得力のある意見交換ができる。 ・多様な意見を統合してグループの結論をまとめることができる。 ・準備した内容に基づき、視覚資料等を活用しながら、聞き手を意識したプレゼンテーションを行うことができる。
教科書教材	『できる日本語中級』(アルク)
テーマ	ライフスタイル、社会の流行、異なる生活習慣、情報社会など
授業内容	<p>テーマに合わせて、グループワーク、ビジターセッション、ディスカッション、テーマ発表を実施する。</p> <p>[グループワーク](内容例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて調査し、ポスター作成、発表。 ・テーマについて映像を見て、意見交換。話し合いの結果をまとめ、発表。 <p>[ビジターセッション]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ゲストに自己紹介、今の生活など、自分について説明できるように準備する。 ②テーマに添ったゲストへの質問を考える。 ③随時話す際に役に立つ表現を確認する。習った文型を使うことを意識させる。 ③ペアやグループで練習する。簡単に振り返りを行う。 ④ゲストを迎えて話をする。(挨拶、自己紹介、質疑応答、フリートーク等) ⑤振り返り:発話内容などを振り返り、自身の課題を明確にする。 <p>[ディスカッション]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①導入:テーマおよび議論を進めるためのルールの確認。 ②インプット:資料などを用い、議論の背景知識と、モデルになる情報を確認。 ③ディスカッション:グループに分かれ、テーマに沿った意見交換を行う ④展開:メンバーを交代し、異なる意見などを聞きながら、自分の主張を改善させる。 ⑤振り返り:議論の内容、発話内容などを振り返る。自身の課題を明確にする。 <p>[プレゼンテーション]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①導入:テーマについて情報を確認する。(問題提起など) ②調査:インターネットを用いて、具体的な事例等を調べる。 ③構成:構成案の作成。(序論、本論、結論)現状の提示、データの提示・比較、自分の意見、提案等。 ④発表準備:視覚資料、原稿作成。発表練習。 ⑤発表、振り返り:プレゼンテーションを実施し、質疑応答や相互評価を行う。自身で振り返る。

学習評価	<p>①平常評価： ・毎授業時、各学習活動(タスクの遂行など)におけるポートフォリオ評価 ・言語行動の積極性、他者との協働性、課題提出(改善のプロセス含む)について評価する。 ・ルーブリックに基づいて評価を行い、最終的に 100 点満点に換算する。</p> <p>②自己評価 ・各授業での振り返り、自己評価 「自己評価チェックツール」(文化庁)を利用して「話す(やりとり)」「話す(発表)」についての客観的分析と、教師との面談を通じた学習目標の達成プロセスを評価する。</p> <p>③期末試験:パフォーマンス評価を行う。卒業前の最終評価として B2 レベル相当の熟達度および言語行動を確認する。 [会話:対人コミュニケーション能力の評価] 口頭試験(ロールプレイ形式)を行い、特定の社会的場面において、相手との関係性や文脈に応じた適切なやり取りができるか、社会言語的能力を含めて評価する。 [発表:論理的発信能力の評価] 特定のテーマについて、情報を分析し、自身の意見を論理的に構成して伝えるプレゼンテーション能力を評価する。</p>
成績評価方法	<p>①～③を合算した総合得点に基づき、以下の 5 段階で判定する。(単元試験・平常評価 20%、期末試験 70%、自己評価 10%) ルーブリックの項目： [会話]評価項目:タスク達成(40 点)、社会言語的適切さ(20 点)、やり取りの方略(10 点)、話し言葉の流暢さ(10 点)、文法的正確さ(10 点)、音声・音韻(10 点) [発表]評価項目:タスク達成・内容の論理性(50 点)、分かりやすく伝える工夫・非言語要素(20 点)、流暢さと音声(20 点)、文法・語彙の正確性(10 点) * (会話 100 点 + 発表 100 点) ÷ 2 = 期末試験得点(100 点満点)として算出する。</p>
成績基準	<p>A(85～100 点): 到達目標を超え、さらに上のレベルの要素を含む。 B(75～84 点): 到達目標をクリアしている。 C(60～74 点): 到達目標に部分的にやや届かない点もあるが、概ね達成している。(合格最低ライン) D(40～59 点): 到達目標に及ばず、再試験や追加課題を要する。 F(39 点以下): 目標に達していない。基礎からの再構築が必要。 *C 以上が合格、それ以下については、面談を行い、状況把握の上、必要な課題を課した上で、再度評価を行う。</p>

目標とする言語活動	子どものころの経験を交えながら、自分の意見をまとめることができる。
パフォーマンスタスク	子供を育てるなら、都会と田舎と、どちらがいいと思いますか。あなたの意見を400～600字程度で書いてください。都会と田舎にはそれぞれどんないい点と悪い点があるか、また、自分の子どものころの経験についても、必ず内容に入れてください。
評価方法	活動前にルーブリック提示し、活動後に自己評価する。教師評価を点数化する。
評価尺度の意味	A:到達目標を超え、さらに+αの要素を含む。 B:到達目標をクリアしている。 C:到達目標に部分的にやや届かない点がある。 D:到達目標に届かず、学び直しが必要。 F:タスクが未達成で評価の対象外である。

評価の観点	A(100～85点)	B(84～75点)	C(74～60点)	D(59～40点)	F(39点以下)
【活動】 タスク達成 (40点)	都会・田舎の比較が非常に具体的で、自身の経験が意見の根拠として効果的に機能している。(40点)	自分の意見、都会・田舎の長所・短所、自身の経験の全要素が含まれ、内容が明確に伝わる。(32点)	要素の一部が欠けている、あるいは記述が不十分で、意見と経験の関連が見えにくい。(24点)	意見のみ、あるいは断片的な事実のみの記述で、タスクの主要な指示を満たしていない。(16点)	ほとんど書けていない、あるいはテーマと無関係な内容で、評価が不可能である。(8点)
【能力】 文法・語彙の 正確性 (20点)	文法・語彙をほぼ正確に使いこなし、誤解を招くような間違いがない。(20点)	文法・語彙が割合正確で、多少の間違いはあるが、内容は明確に伝わる。(16点)	基本的な文法・語彙は使えているが、間違いが目立ち、内容がわかりにくい箇所がある。(12点)	文法・語彙の間違いが多く、表現した内容がうまく伝わらない。(8点)	言語形式ができておらず、文章として成立していない。(4点)
【能力】 字数と正書 法の把握 (20点)	字数が指定通りであり、段落構成や句読点も適切で、非常に読みやすい。(20点)	字数が指定通りで、段落構成や句読点のごく基本的なルールが守られている。(16点)	字数は範囲内だが、段落構成や句読点について基本的な間違いが散見される。(12点)	字数が足りない、または段落がない、句読点がない等のため、かなり読みにくい。(8点)	規定字数の半分以下、あるいは句読点・段落が一切なく評価対象と言えない。(4点)
【能力】 話題の展 開と一貫性 (20点)	多様な結束手段が効果的に使われていて、論理構成が非常にわかりやすい。(20点)	接続表現を使って文と文を結び合わせ、一連の流れがある文章になっている。(16点)	文章が箇条書きのようであったり、順序が不自然であったりして、脈絡が追いきれない部分がある。(12点)	文と文のつながりがない。全体としてまとまっておらず、わかりにくい。(8点)	文と文のつながりが一切なく、断片的な言葉の羅列のみで、文脈を追うことが不可能である。(4点)

※ 自己評価や教師評価でD・Fがついた場合、学生と教師で面談を行い、ルーブリックをもとに「達成できた点」と「不足していた点」を明確化する。学習者がそのタスクのどの部分に難しさを感じたのか、また教室内外での学習状況についても聞き取る。面談で聞き取った内容や、これまでのポートフォリオ評価の内容をもとに、学習目標と学習計画を再調整する。教師は、学習者自身が自ら学習の方向性を修正できるようにサポートするが、必要であれば、集中的な練習や学習機会を設けるための補習や課題を提案する。

目標とする 言語活動	社会における科学の役割について、視覚情報を使って、具体的にわかりやすく、自分の意見を発表することができる。
パフォーマンス タスク	科学の力が社会でどんな役割を果たしているかについて、自分の意見をまとめ、スライドを見せながら 10 分程度でわかりやすく発表してください。発表内容に、選んだテーマの現状、問題点、解決策を必ず入れてください。 1. 科学について、興味のある話題を新聞、雑誌、Web サイトなどから一つ探しましょう。 2. 調べたいテーマの現状、問題点、解決策を調べて、自分の意見をまとめましょう。 3. スライドを作って、発表しましょう。
評価方法	活動前にルーブリック提示し、活動後に自己評価する。教師評価を点数化する。
評価尺度の 意味	A: 到達目標を超え、さらに+αの要素を含む。 B: 到達目標をクリアしている。 C: 到達目標に部分的にやや届かない点がある。 D: 到達目標に届かず、学び直しが必要。 F: タスクが未達成で評価の対象外である。

評価の観点	A (100~85 点)	B (84~75 点)	C (74~60 点)	D (59~40 点)	F (39 点以下)
-------	--------------	-------------	-------------	-------------	------------

【活動】 タスク達成 (50 点)	指示された現状・問題・解決策の 3 要素が非常に具体的で、発表全体に説得力を持たせている。(50 点)	指示された現状・問題点・解決策の 3 要素がすべて含まれ、ある程度具体的に説明できている。(40 点)	3 要素の一部が欠けている、または内容が抽象的、限定的で、内容が十分に伝わらない部分がある。(30 点)	テーマに沿っているが、意見のみ、あるいは単なる事実の羅列で、タスクの主要な指示を満たしていない。(20 点)	発表内容がテーマと無関係、または発表自体が成立していない。(10 点)
-------------------------	---	---	--	--	-------------------------------------

【方略】 分かりやすく伝える工夫 (20 点)	スライド、身振り、質問などが効果的に活用され、聴衆の関心を引く工夫が見られる。(20 点)	スライドが概ね効果的に活用されている。分かりやすく伝える配慮がなされている。(16 点)	スライドはあるが、使い方があまり効果的でない、または、聴衆への配慮が不足している。(12 点)	スライドが内容と合っていない。分かりやすく伝えようとする工夫があまり見られない。(8 点)	スライドをきちんと用意していない、または視覚情報がほとんど活用できていない。(4 点)
-------------------------------	---	--	---	---	---

【能力】 流暢さと音声 (20 点)	流暢かつ自然な速さで、余裕がある。イントネーションで微妙なニュアンスまで表現でき、音声上の問題はほぼない。(20 点)	比較的一定の速さを保って話し続けられる。詰まることがあっても、長い間にはならず、音声上の違和感も少ない。(16 点)	言い直しや沈黙が目立つ。音声で気になる誤りが数か所あるが、意味は通じる。(12 点)	言葉に詰まることが多く、非常にたどたどしい。音声の誤りのために、内容理解に支障が出る。(8 点)	ほとんど言葉が出てこない、または発音が不明瞭すぎて聞き取ることが難しい。(4 点)
【能力】 文法・語彙の 正確性 (10 点)	常に高い文法的正確さを維持し、語彙選択も的確で、誤解を招く間違いがない。(10 点)	比較的高い文法駆使力があり、多少の混乱や間違った語彙選択も内容の伝達を妨げない。(8 点)	文法・語彙がやや不正確で、何がどうしたのか事実関係が十分に伝わらない部分がある。(6 点)	使える文法・語彙が限られていて、間違いも多く、言いたいことがうまく伝わらない。(4 点)	基礎的な文法・語彙が使えておらず、文章として話せていない。(2 点)

※ 自己評価や教師評価で D・F がついた場合、学生と教師で面談を行い、ルーブリックをもとに「達成できた点」と「不足していた点」を明確化する。学習者とそのタスクのどの部分に難しさを感じたのか、また教室内外での学習状況についても聞き取る。面談で聞き取った内容や、これまでのポートフォリオ評価の内容をもとに、学習目標と学習計画を再調整する。教師は、学習者自身が自ら学習の方向性を修正できるようにサポートするが、必要であれば、集中的な練習や学習機会を設けるための補習や課題を提案する。